

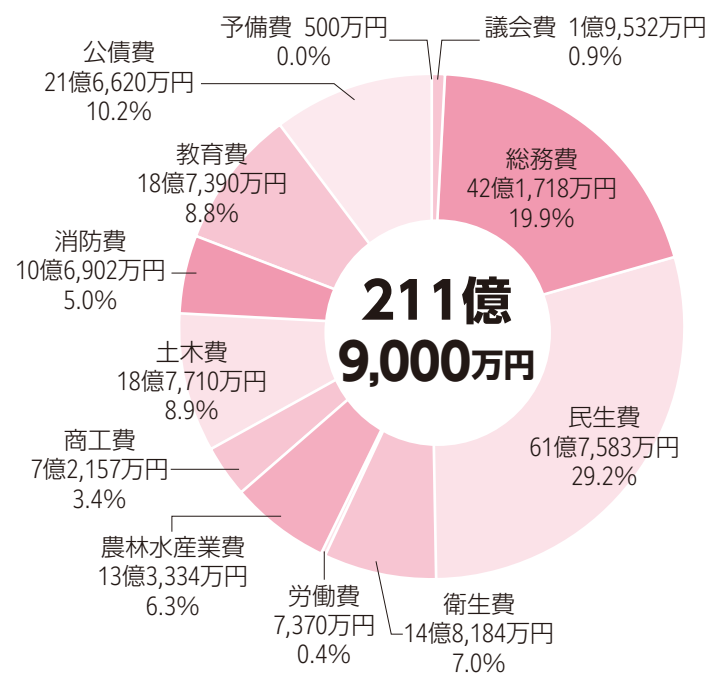
令和7年度 予算概要

本市の財政状況は、固定資産税の増加により市税の増加が見込まれている一方で、扶助費や一部事務組合・公営企業への補助費、公共施設の管理費など、物価高騰の影響により経常的な経費が増加しているため、持続可能な財政運営の構築に向けて、引き続き、健全財政を維持するための取り組みが必要な状況となっています。

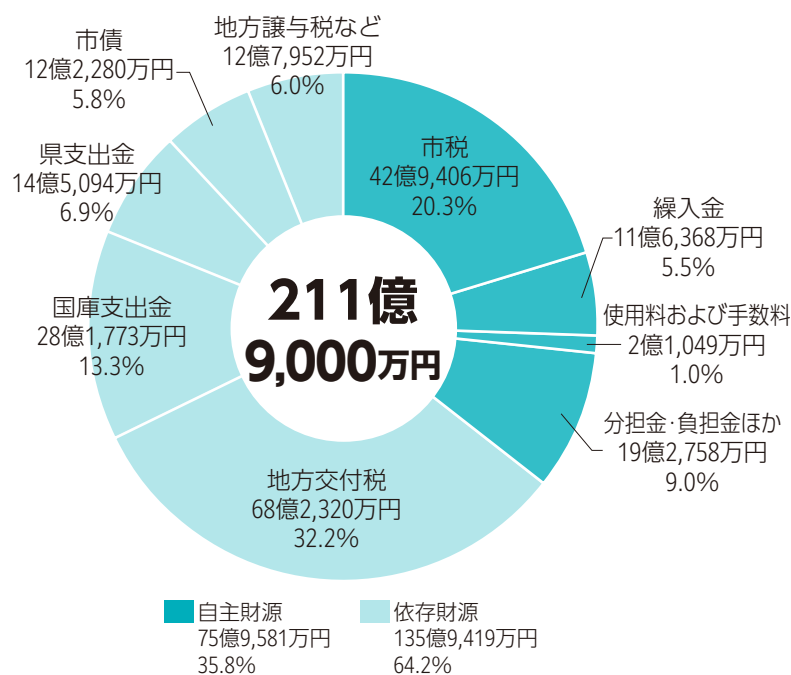
このような状況を踏まえ、令和7年度は、歳入では、国・県を始め、企業・各種団体の補助・助成制度の活用やふるさと納税の促進による自主財源の確保に努めています。歳出では、歳入規模に見合った財政運営を目指しながら、「地域経済を支える地場企業の振興」「結婚支援と子ども・子育て支援の充実」「デジタル化の推進」「シティプロモーションの推進」に関する施策に配意した予算を編成しています。

▶問い合わせ先＝財政課財政係(☎内線224)

一般会計歳出



一般会計歳入



予算額総括表

会計区分		7年度予算額	6年度予算額	増減率
一般会計		211億9,000万円	201億円	5.4%
特別会計	魚市場事業特別会計	3億2,840万円	2億6,120万円	25.7%
	介護保険特別会計(介護サービス事業勘定)	1,572万円	1,455万円	8.0%
	介護保険特別会計(保険事業勘定)	43億9,467万円	42億8,796万円	2.5%
	後期高齢者医療特別会計	5億8,316万円	5億6,023万円	4.1%
	国民健康保険特別会計(事業勘定)	38億9,148万円	40億9,974万円	△5.1%
	国民健康保険特別会計(診療施設勘定)	2億4,627万円	2億4,675万円	△0.2%
企業会計	水道事業会計	19億8,753万円	20億7,126万円	△4.0%
	下水道事業会計	19億61万円	19億7,819万円	△3.9%
合計		345億3,784万円	336億1,988万円	2.7%

※金額・構成比・増減率は表示単位未満で端数調整をしています。

※企業会計の予算額は、収益的支出と資本的支出の合計額から、現金の支出を伴わない減価償却費および資産減耗費を除いた額です。

大綱4

潤いに満ちた快適な生活環境の創造

予算額：約19億1,237万円

- 市道の適切な整備と維持管理を推進
- 日頃市地区の未給水地域解消のため、水道配水管を整備
- 「脱炭素」への関心の高まりを受け、住宅リフォームにおける断熱向上工事などを補助
- 若者や移住者の空き家取得を支援し、空き家の発生抑制と利活用を促進
- 市と県内陸部を結ぶ幹線道路の機能向上に関する国や県への働き掛けを強化
- AIデマンド交通などの新たな交通システムを調査・研究しながら、生活交通手段確保の取り組みを推進

Pick up



国道107号(当市と遠野市間)の高規格化に向けて、整備促進要望活動をさらに推進

大綱5

やすらぎある安全なまちづくりの推進

予算額：約12億6,030万円

- 津波被害の犠牲者ゼロを目指した避難行動方針を取りまとめ、津波避難計画を改定
- 子ども、女性、高齢者などに配慮しながら避難所の備蓄資機材を拡充
- 消防団員確保のため、特定の活動や時間などで限定的に活動に従事する機能別消防団員制度の導入を検討

大綱6

自然豊かな環境の保全と創造

予算額：約8億6,220万円

- 「環境と経済の好循環」の取り組みの一環として、市有林におけるカーボンオフセット事業を具体化
- ペットボトルの分別収集と再商品化を開始
- 下船渡地区と立根地区における下水道の管きよ整備を実施

大綱7

新たな時代を切り拓く行政経営の確立

予算額：約59億720万円

- 総合計画の後期基本計画を策定して、令和8年度から5年間の市政の方向性を明示
- デジタル田園都市国家構想総合戦略とDX戦略に基づき、社会課題の解決や、市の魅力向上に取り組みながら、行政分野での生成AIの活用を検討

Pick up



「おおふなと版窓口改革」として、書かない・ワンストップ窓口の改善や、行かない窓口の早期実現に向けた取り組みを推進

- 市の魅力度と認知度の向上のため、大船渡ブランドの掘り起こしからマーケティングまでの戦略を練る新たな事業を実施
- 魅力あるお礼品の発掘と開発、ポータルサイトの充実により、ふるさと納税の寄附額を増額
- 大船渡・住田定住自立圏共生ビジョンの取り組みや、東日本大震災の中長期的な課題の解決に向けた連携・協力など、広域連携を推進